

狙った2年連続優勝

「去年より嬉しい」逆転V

《第23回九州女子学生選手権》

通算1オーバー 145

東海大九州3年・内藤舞美



【写真は2連覇の内藤（前列㊿）と上位の選手たち】

1日2ラウンド、36ホールストロークプレーでの勝負。昨年は2日間での試合だったが、1日に短縮された。そのどちらも内藤が制した。第1ラウンドはアウトスタート。3番のバーディーで乗るかと思われたが、その後の5ホールで4ボギー。1m以内のパークットを3度も外したのだ。流れをつかむことなく、39・37の76で第1ラウン

ドを終える。初日68の昨年とは8打も叩いてしまったが、トップとは2打差。「みんな伸びていないな」。

第2ラウンドはインスタート。12番で下から3m、14番でも下から5m、18番でも3mのバーディーパットを決めてインを34で折り返すと、後半のアウトでも2バーディー、1ボギーの35にまとめて、出場15人中、唯一の60台となる69で逆転勝利を収めた。

「ここは好きなコース。ポイントが圏外で日本学生に出るには優勝しかなかった。優勝を狙っていたので去年より嬉しい。第1ラウンドが終わった時は優勝はないなあ、と思っていたんですが」と大会史上3人目となる連覇に声を弾ませた。

昨年はドライバーイップスに苦しんだ。テークバックで「上げるのが怖い」というほど悩まされ、90台を打つこともあった。つらかった時期に同じ東海大九州の先輩でイップスを克服し、先週の九州アマチュア選手権を勝った後藤颯太（4年）らからアドバイスを受けたおかげで今年に入って以前のスイングに戻った。「この間（スイングなど）いろんな勉強ができて知識も増えた。トレーニングでドライバーの飛距離も10ヤード伸びて230ヤードに」と今となってはイップスもプラスに働いたようだ。

昨年に続き、2度目の日本学生。「去年は予選落ち。大学に入学した時の目標が日本学生での優勝だったので、優勝を狙います」と力強く宣言した。

大会6人目の連覇

九州アマの悔しさ晴らす

《第43回九州学生選手権》

通算9アンダー 135

九州東海大4年・遠藤崇真



【写真は2連覇の遠藤（中央）と上位の選手たち】

わずか1週間で歯ぎしりが微笑みに変わった。5月30日、九州アマチュア選手権（九州GC八幡コース）の最終日、遠藤には悪夢の1日となった。トップと1打差の2位タイでスタートした第4ラウンドで37・41の78と大崩れ。結局、優勝者と9打差の1オーバー、7位タイでフィニッシュした。

「あの崩れ方は今までなかった。試合が終わった後、家に帰って練習しながら何日も考えた。東海大のキャプテンとして高校生には負けたくない、という気持ちが強かった。自分に圧をかけて崩れたんです」。九アマでの最終日最終組で遠藤は2人の高校生と回ったのだが、大学生、そして主将というプライドが大きく空回りした。そこには彼なりの責任感もあった。「もう少しやりようはあったと思う。自分自身との闘いを実感しました。メンタルだったかな」と反省する。ゴルフでよく言われる格言。「周りを気にせず、自分のゴルフに集中」。最も難しいことだろうが、遠藤は身を持って体験した。

そんな経験を九州学生場で優勝という形で表現した。「ショットも良くなくて不安だった」と第1ラウンドの8、9番で連続OBしてダブルボギー。最初のハーフを3オーバー39とつまずく。しかし、ここから遠藤のハートに火が付く。「意地を見せたかった」と猛チャージが始まる。自己ベストの6連続には及ばなかったものの、12番からの5連続バーディーなどでインを30。第1ラウンドを69でトップと3打差の2位タイでターンすると、第2ラウンドは6バーディー、ノーボギーの66をマークして逆転で大会史上6人目の2連覇を達成した。インだけを見ると、11バーディー、ノーボギーの61。バーディーを奪えるのは強みである。

「ちょっと天狗になっていました。自分は下手くそなんだ、と思いました。自分の世界観を作れたら、いいなと思います」。先週、今週と上下動の激しい時期を過ごしたわけだが、日本アマ、日本学生、そしてプロテストと遠藤には糧となる2週間となった。

《大村湾CCニューコース》

